

公募審査（採択）結果の公表

令和6年3月6日
経済産業省資源エネルギー庁
資源・燃料部燃料供給基盤整備課

事業名：令和6年度「非化石エネルギー等導入促進対策費補助金（水素等供給基盤整備事業）」

（採択事業者）

事業者名	法人番号	提案価格
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	－	1,450,000,000

（提案事業者名）

- ①エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム
日東礦工商事株式会社
一般社団法人ふさと研究所
- ②クリーンエネルギー供給活用コンソーシアム
石油コンビナート高度統合運営技術研究組合
一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会
- ※提案事業者名と下記にある事業者名の順番は対応していない

（審査委員属性）

大学教授
研究機関職員
弁護士
※審査委員の属性と下記にある委員の順番は対応していない

（採点結果）

提案事業者名	委員A	委員B	委員C	合計
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	76	74	76	226
AAA	74	60	72	206

提案事業者名	提案書の記載内容	事業の実施方法、実施スケジュールが現実的か。	事業を遂行するための資力、資金調達能力を有しているか。	事業の実施方法等について、本事業の成果を高めるための効果的な工夫が見られるか。	本事業の関連分野に関する知見を有しているか。	本事業を円滑に遂行するために、事業規模等に適した実施体制をとっているか。	コストパフォーマンスが優れているか。また、適正な積算が行われているか。	賃上げの取組をしているか。	ワーク・ライフ・バランス等推進企業であるか。	合計
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	適	52	28	44	52	20	30	0	0	226
AAA	適	36	30	40	56	26	18	0	0	206

（評価コメント）

提案事業者名	コメント
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	【事業目的】 ・本事業の目的及び成果目標に照らした本事業の位置づけについての理解が確であり、かかる理解が間接補助事業選定審査の基本方針に端的に反映されている。 【実施体制】 ・FS実務・コンビナートを構成する産業の知見・国内外の政策・技術・金融といったFS事業の多面性を捉えた布陣になっている。 ・先行同種事業の経験を踏まえて機動的に本事業の実施が期待できる提案内容となっている。 ・必要最小限の提案となっている。 ・補助金選定において、事務局の中立性を確保する工夫が見られ、この点で高い評価を与えることができる。 ・間接補助事業の選定に係る審査委員候補について、どの観点の整備にも関与していない点で公正性が明確に保たれている。 【実施スケジュールと実行】 ・想定している申請件数・時期に関し、申請が集中した際のマンパワー不足が生じる（結果、審査・事業者決定が遅れる）可能性はないか。 ・交付決定の時期が遅い間接補助事業の業務＋確定検査が十分に実施可能と見込まれているか不明。 【費用対効果】 ・申請組織の能力を最大限活用することで費用が抑制され、費用効率性は高い。
AAA	【事業目的】 ・全国的にバランスのよい水素供給拠点形成の視点を間接補助事業者選定及びFS伴走支援に取り込んだ提案となっているが、本事業の目的についての理解にやや飛躍があるように見受けられる。 【実施体制】 ・水素関連で豊富な知見を有しており、人的な体制も万全であり、水素等の供給基盤構築の実現可能性評価の補助金の事務局機能を、評価のサポートを含めて強力に実施できることが期待できる。 ・審査や伴走支援に当たって、評価対象となる間接事業者との独立性が維持されるか、リスクと対応策が示されていない。 ・本事業者が選定される場合には、補助金申し込みの事業者との利害関係の排除、中立性の担保について、何らかの対応を求めた方が良い。 【実施スケジュールと実行】 ・間接事業実施者の事業期間の確保も含めた実施スケジュールが組まれている。 ・想定している申請件数・時期に関し、申請が集中した際のマンパワー不足が生じる（結果、審査・事業者決定が遅れる）可能性はないか。 【費用対効果】 ・伴走支援等、間接事業者に向けたサポートの一定部分を外注先が担うことで、実施費用が増額されている。 ・事務局経費が高額な印象があり、費用効率性に課題がある。ただ、この点は、サポート機能とのトレードオフと考えれば許容はできる。